

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 奈良市立富雄中学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒631-0061

奈良市三碓二丁目3番12号

E-mail : tomio-j@naracity.ed.jp

Website : http://www.naracity.cd.jp/tomio-j

幼児児童生徒数：男子 334名 女子 372名 合計 706名

幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、目指す生徒像として「命や人を大切にし、活力にあふれ、富雄を誇れる子ども」を育てることを課題として、ESDを生徒を育てる機会と捉え、ESDの実践を通してコミュニケーション力とリーダーの育成を目標とした。

具体的には、国際理解、平和・人権、伝統文化を柱に、①多文化理解に係わる学習、②地域ボランティアに係わる活動、③地域の伝統芸能に係わる学習を行った。

### ① 多文化理解に係わる学習

1年生では、3～4か国出身の外国の方を講師として招き、生活や風習、特徴的な風景、使っている言葉など、その国のことを知る機会を持っている。社会科の授業でもさまざまな国の地理や歴史、今ある課題などのことを学ぶが、3年生では在日韓国・朝鮮の方を講師に招き、さまざまな課題について具体的に考える機会にしている。

## ② 地域ボランティアに係わる活動

夏と冬の年2回、校内や私たちが「花咲ロード」と呼ぶ学校の周りをきれいな花で彩る活動が、ボランティア活動としてたくさんの応援してくれる地域の人たちとともにやっている。また、地域ボランティアの方々との意見交換会をしたり、校区の小学校のボランティアグループと協力して活動したり、地域のお祭りや防災行事に協力したりした。

## ③ 地域の伝統芸能に係わる学習

1年生は、地域の伝統芸能として盆踊りを教えていただいた。その中で地域に伝わる三碓音頭は一般の盆踊りでは見られないものなのを何とか地域で引き継いでいこうと取り組んでいる。生徒はここで学ぶことで、地域の夏祭りに参加するなどして、盆踊りの輪に入り楽しく踊りに参加していた。

他にも、中学で古代米をつくり、黒米を収穫するとともに、そこで出たわらを使って校区の幼稚園、小学校にも声をかけてしめ縄作りに取り組んでいる。



① 1年生の活動の写真



② 花咲ロード活動の写真



③ 盆踊り講習の写真

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 放課後や休日 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

自主教材
------

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

国際理解に関わることは、本校の教育の柱の1つとして計画的に取り組んでおり、時代に応じての変化も考えながら学習している。総合的な学習の時間と道徳を中心に使っているので、最近は計画の段階で時間確保に苦勞している。

地域ボランティア、地域芸能に関わる活動は、地域と協力しながら安定的に工夫改善しながら取組を進めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

校区の地域教育協議会の協力が非常に大きく、様々なアイデアや援助、協力を受けながら取組や活動を進めており、この協力によって取り組める体制や環境が整っている面も大きい。

個別の学習の計画・運営は、研究部のメンバーが中心となって実行し、総括し、改善に努めている。これを毎年繰り返すことで学校全体で組織的に継続的に活動に取り組むことができている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

地域ボランティアに関わる活動については、教師と地域教育協議会コーディネーターが連絡を密に取り合うことによって、常に活動がスムーズに行われる仕組みができている。また、校区の保・幼・小・中のコーディネーター同士がうまく協調して活動しており、校内外での教師の負担が軽くなるので、学校としても活動の質の向上のために取り組むことができている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法としては、本校のホームページを通じて行っており、活動の様子の写真に簡単なコメントを入れている。それ以外の方法で発信することは、人的・時間的な負担が大きく、行っていない。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項2-3に対応

上でも書いた通り、本校の地域教育協議会との協働・交流が非常に大きい。また、国際理解に関わっては、外国人交流センターなどの協力を受けながら取り組んでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項2-4に対応

特別な交流は行っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項2-5に対応

1つ1つの学習や活動について、特に「ユネスコスクールの活動」と意識して取り組んでいることはないが、私たちが日々取り組んできたことが「ユネスコスクールの活動」の理念に合致するものがあるのだと理解している。

今後も、教員の重荷にならないように配慮しながら取組を進めていきたい。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

1年生

- ・障がい者理解・特別支援学級理解 ・防犯教室
- ・給食に関わっての話 ・いじめについて考える
- ・国際理解(留学生と交流しよう)

2年生

- ・校外学習の取組(京都の世界遺産) ・いじめについて考える
- ・給食に関わっての話 ・修学旅行の取組(平和学習)

3年生

- ・修学旅行の取組(平和学習、自然学習) ・防犯教室
- ・人としてのあり方・生き方を考える ・給食に関わっての話
- ・部落問題学習 ・国際理解・異文化講演

体育科

- ・盆踊り

音楽科

- ・琴 ・歌舞伎鑑賞

ボランティアクラブ

- ・古代米作り、しめ縄作り